

令和7年度 こどもアンケート 課題と対策

十小学童クラブ

多くの子どもたちが楽しいと思ってくれている。おやつにも満足してくれている。

問5. こどものこうしたいを聞いてくれるか

子どもたちの意見を聞きながらおもちゃの購入をしたが、残念ながらバットは叩きつけて直ぐ壊してしまった。

問6. 学童クラブは片付いているか どちらでもない11人 片付いていない6人 わからない4人
登所時より玄関の物を外にばらまき、棚にある物を下に全部落としながらランドセル棚にたどり着く。ランドセルをしまえない児童も多数おり、すでに散らかった状態を見ているため、そのような回答が多くあったと思う。

おもちゃや本の使い方などについても子どもたちに、折々に伝えているが特性のある子どもにはなかなか浸透しない。個人面談で保護者に伝えるも「家でもできない。そのぐらいは容赦いただきたい」と言われる。他児も真似するため、日々子どもに片付ける様に伝え続けている。

問12. 知られたくない話や内緒の話をまもってくれるか

自由記述：「トイレにいたら上から誰かがみていた」という意見については、あってはならないことで、児童への「性教育講座」に引き続き、職員向けの研修でトイレはプライベートな場所であり、ふざけたり、遊び場にならないようにすることやプライベートな場所であることを引き続き、子どもたちへ伝えていく。

問13. こまったり「いやだな」「してほしいな」をつたえたとき、よくなるようにしてくれたか

自由記述：「いうのはいやだからいってません」「どっちもある」の回答については、職員が気付いてあげられていないところや話してもらえない雰囲気があるのだと思うので、日頃の関わりの中で、さらに丁寧に接していきたいと考える。また、アンケートだけでなく、子どもが気軽に意見を言う場所として「こどもポスト」を設置しており、これを活用してもらえよう、あらためてこどもに伝えていきたい。

【全体を通して】

棚に登ったり、大声で叫んだり、暴れるなど配慮が必要な児童が多い。一緒に過ごす子ども同士は特性をよく理解しており、関わり方が上手である。手が付けられなくなる前にそっと引き、からまれても相手にしていない。1年間を通して支え合ってきた絆、チームワークの結果と思われる。おもちゃ、まんがには満足している。図書の本には季節を楽しめるものや子ども達はその時に興味を持っているものやリクエストを聞いて選書している。

「友だちがいっぱいできた」個性が強く友だち作りが苦手な子どもには異学年を繋げて仲間を増やし続けている。また、手作りおやつは、登所時の子ども達の嗅覚を刺激し、より穏やかな心と、ワクワクの期待で感情を和らげていると思うので、職員が協力してまめに導入している。

回答の「友だちに嫌われる」について、こだわりが強く、遊びのルールを守れないため、成長していくまわりの友だちが離れていく傾向もみられる。職員が寄り添い室内・室外共にルールを伝えていくも気に入らないと怒鳴り叩き蹴って逃げだそうとする。学校や保護者と情報共有をして興奮させずに孤独とならないような友だちとの関わり方を丁寧に伝えていく。イベント時など4人席での対応でこどもが悲しかったとの意見もあるため、感染症流行時以外のイベント時の机の配置には配慮をしている。

様々な体験活動の場を提供することを心掛け、色々なことに興味をもてるきっかけづくりをします。こども達の日々の反応やつぶやきを大切に同じ目線にたって物事にかかわります。こども同士が認めあえる関係性のお手伝いをしていきます。